



校長の目 ～西小日々通信～

令和4年10月6日（木）



昨日の午後からぐっと寒くなりました。晩秋か初冬を思わせる気温です。大人も子供も体調管理には十分気を付けていきたいものです。コロナ感染も下火になったとはいえ、まだまだ油断はできません。風邪症状が見られた場合には、登校を控えていただきますようお願いいたします。

3年生の教室をのぞいたら、タブレットを前にみんな真剣な表情です。何をしているかと思ったら、タイピング練習でした。今はタイピング練習のアプリもいろいろあって、見渡したところ3種類くらいのアプリをそれぞれの子が選んで取り組んでいました。点数が出たり、ミスタッチ数が表示されたりするので、みんな夢中になって練習していました。私もまぜてもらい、子供とタイピング勝負をしました。みんなから、「校長先生、すごい速い～」とほめられてしまいました。子供たちはどんどん吸収していきますから、あっという間に上達することでしょう。



6年生は体育でマット運動の学習です。マット運動は、跳び箱と同様に発達段階に合わせて技が高度化していきます。低学年から中学年にかけては、前転や後転など、体を小さく丸めて回転する技を習得する過程を通して、着手の位置、回転の方向と速さ、両足着地などを習得します。これらを基礎基本として、中学年から高学年にかけて技のレパートリーが増えていきます。特に高学年では、倒立前転、側転（側方倒立回転）、ロングート（側方倒立回転とび1/4ひねり後向き）に取り組みます。これらは、いずれも手足を伸ばし、体を開いて大きく動くため、体幹を意識しないと難しい技です。回転するとき、背骨から腰骨にかけて両足の重さが乗っていると感じないと、うまくいきません。足がしっかり上がって、腰に体重がしっかり乗っているときは、床面に対して垂直に体が伸び、足も軽く感じられます。怖がっていると、腰が曲がって足が落ちてしまいます。子供たちは、何度も練習しながら、「できた？」と友達に聞いて、自分の姿勢を確認していました。



図工室からにぎやかな音が聞こえてきました。電動のこぎりの音です。5年生の図工は、これから木工による立体作品に取り組めます。電動のこぎりを使う学習は初めてなので、まずは段ボールを切る練習をしました。本時は、いよいよ板を切ります。今回の立体作品は、電動のこぎりで自由な形に板を切り、切った板を組み合わせることで作品を作ります。ですから電動のこぎりの精度は、二の次です。それより、思い向くまま直線や曲線で自由に切り取る方が面白い形ができ、その意外性を楽しんだ方が、個性的で魅力的な作品になります。板を切る子供たちは、少し緊張しながらも、切り終わるとほっとした表情と笑顔を浮かべていました。

